

HP OpenView Operations Smart Plug-in for SAP

ソフトウェア リリースノート

ソフトウェア バージョン : **A.09.02 Edition 2**

HP-UX および **Sun Solaris** オペレーティング システム



Manufacturing Part Number : None

ドキュメント リリース : **2005 年 11 月**

ソフトウェア リリース : **2005 年 11 月**

© Copyright 1998-2005 Hewlett-Packard Development Company L.P.

ご注意

保証について

Hewlett-Packard 社は、この文書に関して市場性および特殊目的への適合性の暗黙の保証を含む一切の保証を行わないものとします。Hewlett-Packard 社は、この文書内の欠陥に対して、およびこの文書の提供、実行、または使用に関連する直接損害、間接損害、実損害、偶発損害、および結果損害に対して責任を負わないものとします。

ご使用の Hewlett-Packard 製品に適用される個別の保証条項の複写は、お近くの営業所で入手できます。

法律上の権利の制限について

合衆国政府による使用、複製、および開示に関しては、国防総省機関については DFARS 252.22707013 の「技術データおよびコンピュータソフトウェアにおける権利」条項の (c)(1)(ii) 項で定める制限事項がそれぞれ適用されます。

Hewlett-Packard Company
United States of America

その他の機関に対しては FAR 52.227-19 (c)(1) および (c)(2) で定める制限事項がそれぞれ適用されます。

著作権について

©Copyright 2005 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

当社の事前の書面による承諾なく、本書のコピー、改変、または別の言語への翻訳を行うことは禁じられています。この情報は予告なしに変更されることがあります。

商標について

Intel®、Itanium® および Pentium® は、米国ならびに他の国における Intel Corporation またはその関連会社の商標または登録商標です。

Java™ は、米国における Sun Microsystems, Inc. の商標です。

Microsoft® は、米国における Microsoft Corporation の登録商標です。

Windows NT® は、米国における Microsoft Corporation の登録商標です。

Windows® 2000 は、米国における Microsoft Corporation の登録商標です。

Windows®, MS Windows® および Windows NT® は、米国における Microsoft Corporation の登録商標です。

Netscape および Netscape Navigator は、米国における Netscape Communications Corporation の商標です。

Oracle® は、米国 California 州 Redwood City に所在する Oracle Corporation の登録商標です。

Oracle7™ は、米国 California 州 Redwood City に所在する Oracle Corporation の商標です。

OSF/Motif® および Open Software Foundation® は、米国およびその他の国における the Open Software Foundation, Inc. の登録商標です。

UNIX® は、米国における The Open Group の登録商標です。

1 Smart Plug-in for SAP リリースノート

はじめに

このドキュメントは、OpenView Operations Smart Plug-in for SAP (SPI for SAP) のソフトウェアバージョン A.09.02 Edition 2 での変更点の概要を説明しています。製品マニュアルやオンラインヘルプに記載されていない重要な情報を含みます。

Smart Plug-in for SAP は、R/3 サービスの提供を確実にする上で必要な IT 要素をすべて管理できるよう、HP OpenView を拡張するものです。これにより、OVO を IT 環境全体の管理に使用できるだけでなく、さまざまなビジネスクリティカルアプリケーションをも管理できます。R/3 のみに特化した管理製品とは異なり、HP の方法では皆様のシステム管理に対するニーズのすべてを統合することが可能です。

『HP OpenView Operations Smart Plug-in for SAP ソフトウェアリリースノート』では以下の内容について説明します。

- 6 ページの「このバージョンの新機能」
- 9 ページの「ドキュメントのアップデート」
- 10 ページの「インストールについて」
- 12 ページの「このバージョンのパッチおよび修正点」
- 13 ページの「既知の問題および回避策」
- 23 ページの「ドキュメントの誤記」
- 25 ページの「各国語のサポート」
- 26 ページの「サポートについて」

このバージョンの新機能

Smart Plug-in for SAP では、以下の機能が追加および強化されています。

- **SPI for SAP のドキュメント**

このバージョンの SPI for SAP は、いくつかのファイルを新しい場所にインストールします。インストール後、SPI for SAP の製品ドキュメントは OVO 管理サーバー上の次の場所に配置されています。

```
/opt/OV/paperdocs/...
```

- **OVO エージェントのサポート**

現在のリリースの SPI for SAP は、OVO for UNIX の HTTPS エージェントのサポートを提供します。HTTPS エージェントを AIX 管理対象ノード上で実行するには追加の OVO ソフトウェア（最新の AIX 用 OVO エージェント パッチなど）が必要ですのでご注意ください。AIX ノード上の HTTPS エージェントを使用する際に起こりうる問題についての詳細は、21 ページの「モニタが AIX 管理対象ノードからメッセージを送信しない」を参照してください。

- **管理対象ノードのサポート**

現在のリリースの SPI for SAP は、Linux オペレーティング システム上で動作する SAP サーバーをサポートしています。SPI for SAP のサポート対象の Linux ディストリビューションおよびバージョンについての詳細は、『*HP OpenView Operations Smart Plug-in for SAP インストールガイド*』を参照してください。

- **SAP トランスポート/ユーザー ロール**

現在のリリースの SPI for SAP は、SAP R/3 4.6C 以降でのみ使用可能な 2 つのユーザー ロールを提供します。これらの SPI for SAP のユーザー ロールは、SAP 権限の付与を SPI for SAP の機能を使用するために必要な権限のみに制限することにより、セキュリティを強化します。

- **各国語版のソフトウェア**

SPI for SAP のバージョン A.09.02 Edition 2 は、日本語に対応しています。詳細は、25 ページの「各国語のサポート」を参照してください。

- **改良されたアラート モニタとアラート収集**

- r3monjob

JOBREPORT モニタが生成するメッセージが、ジョブ エラーが発生した SAP サーバー名を報告するようになりました。以前は、メッセージは JOBREPORT モニタ r3monjob が JOBREPORT エラーに関する情報を取得する目的で SAP にログオンする際の接続先サーバー名を報告していました。

- r3mondmp

ABAP ダンプ モニタ用のメッセージ条件中の誤字を修正しました。オペレータ起動アクションの定義中に余分な改行がありました。

- **SAP R/3 ITS バージョン ITS 6.20 および ITS 4.6/6.10**

現在のリリースの SPI for SAP は、Linux オペレーティング システム上および Microsoft Windows オペレーティング システム上ともに、SAP ITS 6.20 および SAP ITS 4.6/6.10 の監視をサポートしています。ITS 6.20 および ITS 4.6/6.10 用の SPI for SAP モニタのインストールおよび設定についての詳細は、『*HP OpenView Operations Smart Plug-in for SAP システム管理リファレンス ガイド*』を参照してください。

- **サービス レポート**

現在のリリースでは、ITS 6.20 のレポート用に、新しいレポートおよび新しいレポート グループを提供しています。

- **Itanium/HP-UX**

現在のリリースの SPI for SAP は、エミュレーション モードで実行している SPI for SAP バイナリを使用した Itanium の HP-UX 11.23 の SAP をサポートします。サポート対象のプラットフォームおよびオペレーティング システムについての詳細は、『*HP OpenView Operations Smart Plug-in for SAP インストール ガイド*』を参照してください。

- **SAP Web AS (J2EE) 監視**

現在のリリースの SPI for SAP は、SAP J2EE Engine の監視をサポートします。SAP J2EE Engine は、SAP Web Application Server (SAP WebAS) の一部です。SPI for SAP を使用した SAP WebAS 監視についての詳細は、SPI for SAP ソフトウェアのインストール後に OVO 管理サーバー上のドキュメントのディレクトリに配置されているホワイト ペーパー `sapspi_J2EE_Monitoring.pdf` を参照してください。ドキュメントのディレクトリは、OVO 管理サーバー上の `/opt/OV/paperdocs/...` になります。

Smart Plug-in for SAP リリースノート このバージョンの新機能

- **セキュリティ監視**

現在のリリースの SPI for SAP は、SAP のセキュリティ監査機能を使って、SAP ABAP 環境内の SAP セキュリティ イベントの監視をサポートしています。SPI for SAP を使用した SAP のセキュリティ監視についての詳細は、SPI for SAP ソフトウェアのインストール後に OVO 管理サーバー上のドキュメントのディレクトリに配置されているホワイトペーパー `sapspi_Security_Monitoring.pdf` を参照してください。ドキュメントのディレクトリは、OVO 管理サーバー上の `/opt/OV/paperdocs/...` になります。

- **SAP NetWeaver**

現在のリリースの SPI for SAP は、SAP 6.40 の下位互換カーネル、および 6.40 ABAP/カーネル上で動作している新しい NetWeaver コンポーネントの監視をサポートしています。

- **SAP R/3 Enterprise**

現在のリリースの SPI for SAP は、SAP R/3 Enterprise バージョン 4.7x2.00 の機能および SAP NetWeaver 04 プラットフォーム (mySAP ERP (Enterprise Resource Planning)、ECC (ERP Central Component)、等々) 上でビルドされた任意のコンポーネントをサポートしています。

- **セルフヒーリング サービス (SHS)**

OVO エージェントのセルフヒーリング サービス コレクタへの登録と、必要に応じたデータ収集プロセスの手動開始を支援する 2 つの新規アプリケーションが追加されました。SHS 登録アプリケーションは単独で「Self-healing Services」アプリケーショングループ、SHS データ収集アプリケーションは「SAP R/3 UN*X」および「SAP R/3 NT」アプリケーショングループにあります。

- **サポートの終了**

次回の SPI for SAP のメジャーリリースでは、SAP バージョン 3.1 から 4.6B のサポートを終了する予定です。今後の SPI for SAP リリースでは、4.6C 以降の新しいバージョンのみがサポート対象となります。特定の機能のサポートの終了予定等の詳細は、『*HP OpenView Operations Smart Plug-in for SAP インストールガイド*』の「始める前に」の項を参照してください。

- **変更点および追加**

このリリースでのソフトウェアの機能の変更点および追加について、ならびに変更点のアップグレード戦略に及ぼす影響についての詳細情報は、『*HP OpenView Operations Smart Plug-in for SAP インストールガイド*』の「SPI for SAP に対する変更」の項を参照してください。

ドキュメントのアップデート

このリリース ノートの最初のページには、以下の情報が記載されています。

- ソフトウェア バージョン番号。ソフトウェア バージョンを示します。
- ドキュメント リリース日。ドキュメントのアップデートごとに変更されます。
- ソフトウェア リリース日。このバージョンのソフトウェアのリリース日を示します。

最新のアップデートをチェックしたい、または最新版を使用していることを確認したい場合は、以下の URL にアクセスしてください。

http://ovweb.external.hp.com/lpe/doc_serv/

1. [Product] リストで、目的の製品をクリックして選択します。
2. [Version] リストで、目的の製品バージョンをクリックして選択します。
3. [OS] リストで、目的の対象オペレーティング システムをクリックして選択します。
4. [Document] リストで、目的のドキュメントのタイトルをクリックして選択します。
5. [Open] または [Download] ボタンをクリックします。

注記

PDF 形式のファイル (*.pdf) をご覧いただくには Adobe Reader のインストールが必要です。Adobe Reader をダウンロードするには、次の Web サイトにアクセスしてください。

<http://www.adobe.com/>

インストールについて

この項では、Smart Plug-in for SAP の A.09.02 Edition 2 をインストールする前に、管理サーバーおよび管理対象ノードにおいて満たさなければならないソフトウェアおよびハードウェア要件を記述します。ここでは以下の内容に関する情報を取得できます。

- 10 ページの「ハードウェア、OS、およびディスク容量の要件」
- 10 ページの「互換性があるソフトウェア バージョン」
- 10 ページの「SAP R/3 トランスポート番号」
- 11 ページの「インストールのシナリオ」

ハードウェア、OS、およびディスク容量の要件

『*HP OpenView Operations Smart Plug-in for SAP インストール ガイド*』の「始める前に」の項で、管理サーバーおよび管理対象ノードにおける SPI for SAP のハードウェア、およびディスク容量の要件について詳しく記述しています。

互換性があるソフトウェア バージョン

『*HP OpenView Operations Smart Plug-in for SAP インストール ガイド*』の「始める前に」の項で、現行の SPI for SAP と互換性があるソフトウェア パッケージのバージョンについて詳しく記述します。

SAP R/3 トランスポート番号

現行の SPI for SAP 用のトランスポート番号の一覧については、SPI for SAP ソフトウェアを問題なくインストールした後、管理サーバー上の以下のファイルを参照してください。

```
/opt/OV/lbin/sapspi/trans/readme
```

注記

SPI for SAP トランスポートの readme ファイルに、SAP Web AS Java (J2EE) モニタおよびセキュリティ モニタ用の新しい CCMS ベースのツリーに対応する追加トランスポート ファイルについての情報があります。追加トランスポート ファイルには、独自の read-me の指示があります。

SAP トランスポートをインポートする場合には、以下の点に注意してください。

- 日本語テキストのシンボルをインポートしなければならないのは、日本語版 SAP R/3 システムを使用している場合のみです。
- SAP ユーザー ロールは SAP R/3 4.6B 以前では使用できません。SAP 4.6C 以降でのみ使用可能です。

インストールのシナリオ

SPI for SAP のインストールおよび旧バージョンのソフトウェアからのアップグレードについての詳細は、『*HP OpenView Operations Smart Plug-in for SAP インストールガイド*』を参照してください。

このバージョンのパッチおよび修正点

この項では、SPI for SAP ソフトウェアの現在または以前のバージョンに関する問題に対処するために導入されたパッチおよび修正点について説明します。

このバージョンの SPI for SAP ソフトウェアには、特にパッチや修正を取り込んでいません。

既知の問題および回避策

この項では、SAP for SAP ソフトウェアのリリース前に修正できなかった既知の問題を列挙します。

1. SAP GUI

- 現象： SPI for SAP に定義されるオペレータ起動アクションのほとんどで SAP GUI が必要となるにも関わらず、SAP GUI は SAP SPI インストールメディアの一部ではありません。
- 対策： SAP の CD から OVO 管理サーバーに最新の SAP GUI バイナリをインストールします。SAP GUI バイナリは "Presentation Unix" CD に含まれています。『*HP OpenView Operations Smart Plug-in for SAP* インストールガイド』の「SAP GUI の OVO 管理サーバーへのインストール」を参照してください。

2. SAP R/3 64 ビット システムの管理

- 現象： SAP R/3 64 ビットバージョンを監視すると、SPI for SAP モニタがエラーメッセージやコアダンプ、またはその両方を出力し、中止されます。
- 対策： 共有ライブラリの使用状況によっては、同一オペレーティングシステム上の 32 ビットおよび 64 ビット SAP システムに対し、異なるバイナリが必要となります。場合によっては、管理対象ノードのアーキテクチャ (32 ビットと 64 ビット) の自動検出が正常に動作しません。

検出は、モニタ バイナリの初期分配後に実行されます。検出されたバージョンは、管理対象ノード上の以下のファイルに保存されます。

- Solaris:
`/var/opt/OV/conf/sapspi/sap_mode.cfg`
- AIX:
DCE: `/var/lpp/OV/conf/sapspi/sap_mode.cfg`
HTTPS: `/var/opt/OV/conf/sapspi/sap_mode.cfg`

以下のような状況は、設定ファイルに誤ったアーキテクチャが保存される原因となります。

- SPI for SAP が 32 ビット SAP R/3 システムにインストールされ、後に 64 ビットにアップグレードされた場合。

設定ファイル `sap_mode.cfg` が存在しない場合に限り自動検出が実行されるため、アップグレードによる変更点が自動検出で検出されません。

この場合は設定ファイルを手動で編集し、正しいアーキテクチャを記述してください。設定内容を変更した後は、モニタおよびコマンドを管理対象ノードに再度分配してください。

3. r3monsap、r3monal、および r3monxmi を使用した場合のメッセージの重複

現象： 特定の状況下でメッセージが複数回報告されます。

対策： r3monsap、r3monal、および r3monxmi の各モニタでは、監視される情報ソースが一部重複しています。それぞれのモニタは、異なるバージョンの CCMS アーキテクチャで操作するように設計されています。つまり、同一の SAP Instance に複数のモニタを割り当てると、メッセージの重複が発生する場合があります。『*HP OpenView Operations Smart Plug-in for SAP システム管理リファレンスガイド*』を参照し、監視する SAP R/3 バージョンと併用可能なモニタを調べ、別のモニタを再度割り当ててください。

4. r3monxmi がメッセージを送信しなかったり、メッセージの送信が必ず遅れてしまう

現象： r3monxmi モニタから送信されるメッセージが、特定の時間（数時間）分遅れて送信されたり、まったく送信されない場合があります。SAP の XMI API におけるタイムゾーン処理に問題があります。この API は、API を呼び出すユーザーのローカル時間、つまり opcagent プロセスを使用し、基本 SAP レポートで使用される開始時間と終了時間を設定します。このレポートは SAP R/3 アプリケーション サーバーで実行され、そのタイムゾーン設定により異なるローカル時間を持ちます。

- アプリケーション サーバーのローカル時間が監視対象システムのローカル時間よりも遅れている場合は、レポートはメッセージを何も検出しません。
- 監視対象システムのローカル時間がアプリケーション サーバーのローカル時間よりも遅れている場合は、メッセージはこの時間差分で遅れて送信されます。

対策： 監視対象ノードの opcagent プロセスの時間および SAP アプリケーション サーバーが正しいタイムゾーンに設定され、適切に同期が取れていることを確認してください。

5. ユーザー モニタの値が SM04 の値と異なる

- 現象： コレクタにより報告されるログインユーザー数が、SAP トランザクション **SM04** に表示されるユーザー数と異なります。
- 対策： この相違は、コレクタが「itouser」をログインしたユーザーとして数えることが原因で発生します。このため、2つのユーザー数に相違が生じます。

6. ホストを2度設定するとメッセージが重複し、パフォーマンスが低下する

- 現象： **snapshot** タイプのモニタが重複メッセージをメッセージブラウザに送信し、SAP for SAP のパフォーマンスが全体的に低下します。
- 対策： 設定ファイルのいずれかに複数の管理対象ノードが定義されているかどうかを確認します。たとえば、**sapsystem** などの短いホスト名を使用する一方で、**sapsystem.company.com** などの完全修飾名を使用している場合など。与えられた1つのホスト名に対して複数の項目を指定すると、モニタを呼び出すたびに、モニタ バイナリが SAP R/3 システムに対し2つの接続を開いてしまう原因となります。
- 各システムは設定ファイル上で1度のみ設定しなければならず、また、完全修飾名で指定することをお勧めします。

7. モニタのパフォーマンスが低い

- 現象： SPI for SAP モニタが SAP R/3 システムからの情報取得に非常に長い時間がかかります。
- 対策： 設定ファイルで CP (**Contains Pattern**) オプションを多用しているかどうかを確認してください。この CP オプションは時間とシステム リソースの双方を消費します。CP オプションは可能な限り EQ オプションで代用してください。代用が不可能である場合は、完全修飾された CP オプション(例：**CP***)の使用は避けてください。代わりに、1つの文字列パターンを使って CP オプションを修飾します(例：**CP MY_JOB***)。

8. SPI for SAP サービス レポート エラー 534

- 現象： 一部の SPI for SAP レポートが見つからないか、空であり、ERROR 534 メッセージが OV Reporter ステータス ペインに表示されます。
- 対策： この問題では2つの対策が考えられます。
- a. レポート データが見つからない場合：OV Reporter Gather Data コマンドを再度実行してみてください。

- b. DBINFO_PERF パフォーマンス モニタが実行されているインスタンスを持つシステムが SAP R/3 レポート グループに存在しない場合は、DBINFO_PERF モニタにより収集されたデータ（以下に示します）を使用するすべての SPI for SAP サービス レポートを SAP R/3 Reports Group から削除する必要があります。
 - SAP R/3 Database Performance
 - SAP R/3 Database Quality

9. SPI for SAP サービス レポートが作成されない

現象： Oracle データベース内のデータを使用するように設定すると、OV Reporter でサービスレポートが作成されないか、空のレポートが作成されます。一部のレポートが失われたり空であったりしても、OV Reporter ステータス ペインにエラー メッセージが表示されません。

対策： サポート対象バージョンの Oracle ODBC ドライバを使用していることを確認してください。SPI for SAP のパフォーマンス統合は、以下のバージョンの Oracle ODBC ドライバでテストされ、正常動作が確認されています。

- 8.1.66
- 8.1.76
- 9.0.13

10. WLSUM_PERF および DOCTSTAT パフォーマンス メトリック

現象： SPI for SAP の新しいパフォーマンス モニタである DOCSTAT および WLSUM_PERF がデータを収集しません。

対策： SAP パフォーマンス コンポーネントから有用なデータを取得するためには、SAP レポート RSCOLL00 を SAP R/3 システム で 1 時間に 1 回実行するようにスケジュールする必要があります。SAP コンポーネントの標準的なレポートやジョブのスケジュール方法の詳細は、SAP OSS note 16083 を参照してください。

11. SAP ITS 4.6/6.10 モニタ ログ ファイル

現象： ITS 4.6/6.10 ログが時間の経過とともに非常に大きくなり、システム パフォーマンスに影響を及ぼします。この問題は、パフォーマンス データにアクセスするために、SPI for SAP が SAP 内のトレースをオンに切り替えるためです。

- 対策： 以下の ITS 4.6/6.10 トレースおよびログ ファイルを定期的にチェックし、必要であれば削除したりバックアップしたりしてください。
- <SAP_ITS_Install_Dir>\SAP\ITS\2.0<INSTANCE_NAME>\traces
 - <SAP_ITS_Install_Dir>\SAP\ITS\2.0<INSTANCE_NAME>\log

12. SAP ITS 4.6/6.10 セキュリティ

- 現象： ファイアウォールが設置されている環境で ITS 4.6/6.10 モニタの使用を試みると、問題が発生します。
- 対策： SAP ITS 4.6/6.10 の統合については SPI for SAP ホワイト ペーパーを参照してください。このホワイト ペーパーは、SPI for SAP を正常にインストールした後、OVO 管理サーバーの以下の場所に配置されています。
- ```
/opt/OV/paperdocs/sapspi/<LANG>/sapspi_ITS_Firewall_White\Paper.pdf
```

## 13. パフォーマンス モニタから統計データを取得できない

- 現象： SPI for SAP パフォーマンス モニタから提供される統計レコードが存在しません。
- 対策： すべてのログイン情報を r3itosap.cfg ファイルに追加した後、SAP システムに r3perfstat.cfg の設定が記述されていることを確認してください。r3itosap.cfg ファイルに保存した新しい設定を SAP システムに書き込むには、[VPO 登録ノード] ウィンドウで適切な SAP システムを選択し、[VPO 登録アプリケーション] ウィンドウの [SAP R/3 Admin] アプリケーション グループで [統計記録有効化] アプリケーションを実行します。

## 14. サービス検出で MS Windows 管理対象ノード上の SAP インスタンスを検出できない

- 現象： サービス検出アプリケーション r3sd が管理対象ノードのシステム アカウントで動いていて、SAP インストール ディレクトリが UNC の構文 (「\\server\_name\...」など) で指定されている場合、r3sd が MS Windows 管理対象ノード上にインストールされた SAP インスタンスを検出できません。R3-Info アプリケーションでも同様の問題が発生します。実行は完了しますが何も出力されません。
- 対策： 環境変数 SAPOPC\_SAPPROFILEDIR を使ってインストールした SAP のローカルパスを指定するか (SAP センtral インスタンスでのみ可能)、UNC 表記を使ってネットワーク パスにアクセスできるように、別のユーザー アカウントで OVO エージェントを実行するように設定します。

**15. サービス検出で MS Windows 管理対象ノード上の SAP アプリケーション サーバーを検出できない**

現象： MS Windows 上の SAP システムで、SAP インストール ディレクトリが「¥exe¥run」で終わっていない場合、アプリケーション サーバーが検出されません。

対策： 環境変数 SAPOPC\_SAPPROFILEDIR を使って、SAP をインストールした正しいディレクトリを MS Windows システム上で明示的に設定します。

**16. r3monxmi が SAP システム ログの最初のエントリを記録しない**

現象： SAP リリースとパッチ レベルのある組み合わせ (例：6.20 とパッチ レベル 38) によって、SAP システム ログの最初に r3monxmi モニタが判読できないメッセージが表示されます。

対策： これは既知の SAP の問題によるものです。問題を解決する方法についての詳細は SAP note 761220 を参照してください。

**17. WLSUM\_PERF データを使用した応答時間のレポートが信頼できない**

現象： SPI for SAP パフォーマンス モニタ WLSUM\_PERF で収集されたデータを使用して、すべてのタスクの種類または完全な SAP システム ID の応答時間を表示するワークロードおよびユーザー レポートが間違っていることがあります。

対策： パフォーマンス モニタ WLSUM\_PERF で収集されたデータを使用したレポートで時間の処理方法を変更したため、SPI for SAP のバージョン A.08.x および A.09.x で収集されたパフォーマンス データを同じレポートで混合できません。レポートは、旧バージョンのパフォーマンス モニタまたは新バージョンのパフォーマンス モニタのどちらかのデータを使用できますが、同時に両方のデータを使用することはできません。

**18. レポートが 23:00 と 00:00 の間の時間のデータを表示しない**

現象： SPI for SAP パフォーマンス モニタ WLSUM\_PERF で収集されたデータのワークロードおよびユーザー レポートが、午後 11 時 (23:00) および真夜中 (00:00) の間の時間の値を一切表示しません。

対策： SAP および SPI for SAP パフォーマンス データ ソース (Embedded Performance Component および OV Performance) の時間の記録方法と扱い方が違うためです。レポートのスケジュールを真夜中 (00:00) および午前 2 時 (02:00) の間に開始するのは避けてください。午前 2 時 (02:00) 以降にスケジュール レポートを実行してください。

## 19. SPI for SAP 移送のインポート エラー

現象： SAP ベーシス バージョン 6.10 で SPI for SAP 移送を SAP システムへインポートしようとするると中止されます。たとえば、次のようなエラーが表示されます。

```
ERROR: SM1K900105: couldn't locate TA-info in .../cofiles
<illegal format detected>
```

対策： SAP サポート パッケージ レベル 36 またはそれ以上が、SPI for SAP 移送をインポートするシステムにインストールされていることを確認してください。

## 20. SPI for SAP 移送の移動エラー

現象： SPI for SAP アプリケーション [移送] は、移送ファイルをインストール済みの OVO HTTPS エージェントを使用して MS Windows 管理対象ノード上の誤った場所へ移動します。たとえば、R3Trans.car ファイルは \\<hostname>\sapmnt\trans に配置されずに <agent\_drive\_letter>:\<hostname>\sapmnt\trans に配置されます。

対策： HTTPS エージェントが起動している MS Windows 管理対象ノードにログオンして、SPI for SAP 移送ファイルを手動で正しい場所 \\<hostname>\sapmnt\trans に移動した後、ABAP 移送ファイルの処理を続行します。

## 21. SPI for SAP アプリケーションがローカル画面を表示しない

現象： SAP R/3 UN\*X アプリケーション グループの一部の SPI for SAP アプリケーション (例: sapdba の起動、DB チェック、プロセスログ、フロントエンド起動、ステータス: R/3 設定) が、経過や結果の画面を表示しないことがあります。SPI for SAP アプリケーションが実行中で、xhost が OVO 管理対象ノードのエントリを含まないコントロール リストにアクセスしているリモート システムに、OVO 管理サーバーの表示がリダイレクト (例: telnet 経由) される時に問題が起こります。その結果、管理対象ノードで実行しているアプリケーションは、OVO 管理サーバー表示をリダイレクトしているリモートシステムで表示できません。

対策： 手動で OVO 管理対象ノードの完全な修飾ホスト名を、リモート システムの有効な xhost クライアントのリストに加えてください。たとえば、**xhost +<Managed\_Node\_Name>** コマンドを使用します。

## 22. SPI for SAP Performance Agent

現象： 製品ドキュメントにあるアンインストール手順に従って SAP 管理対象ノードから SPI for SAP Performance Agent を削除しても、SPI for SAP Performance Agent が実行し続けます。また、PerfAgt Status アプリケーションが SPI for SAP Performance Agent は管理対象ノード上にインストールされていないことを示すエラーを報告しても同様の現象が起きます。

対策： SPI for SAP Performance Agent を削除した管理対象ノードにログオンします。ユーザー `root` で、手動で SPI for SAP Performance Agent プロセス `r3perfagent` を `stop` または `kill` します。

SPI for SAP Performance Agent プロセスを停止するためにコマンド行で `r3perfagent` コマンドに `stop` オプションを指定する方法を使用できないことに注意してください。SPI for SAP Performance Agent を削除するプロセスの一部として `swremove` コマンドはファイルの名前変更および削除を行うので、`r3perfagent` ファイルの存在は保障できません。

## 23. SPI for SAP WLSUM レポートで、連続的なデータに不正な値が表示される

現象： SPI for SAP WLSUM レポートで、通常は連続しているはずのデータに不正な値が表示されます。たとえば、通常は 1 時間あたり 1000 程度のダイアログ ステップが表示される SAP システムのレポートの場合、ある 1 時間ではステップは全く表示されず、次の 1 時間で通常の 2 倍に相当する 2000 ステップが表示されます。

対策： WLSUM モニタのデータ収集は、システム内部の SAP ジョブである `COLLECTOR_FOR_PERFORMANCEMONITOR` に基づいて実行されます。このジョブが適切なタイミングで実行されていないと、通常は `WLSUM_PERF` モニタで収集されるはずのデータが、次の SPI for SAP パフォーマンス モニタの実行時にしか収集されなくなります。システム内部の SAP パフォーマンス収集ジョブである `COLLECTOR_FOR_PERFORMANCEMONITOR` の動作は、SPI for SAP ジョブ モニタ `r3monjob`、で監視できます。

## 24. UNIX 管理対象ノードの OVO アプリケーションを使って r3perfagent を停止できない

現象： OVO アプリケーションの PerfAgt 停止を使って SPI for SAP パフォーマンス収集 `r3perfagent` を停止すると、シャットダウンに成功したというメッセージが表示されるにも関わらず、`r3perfagent` は実行し続けます。パフォーマンス収集の実行状態の監視には、PerfAgt ステータスアプリケーションを使用できます。

対策： r3perfagent パフォーマンス収集が実行し続けている UNIX 管理対象ノードにログオンし、UNIX の kill コマンドを使って r3perfagent を手動で停止します。r3perfagent で "behind schedule" メッセージが表示された場合は、『*HP OpenView Operations Smart Plug-in for SAP システム管理リファレンス ガイド*』のトラブルシューティングの章にある「パフォーマンス モニタが同期化されない」の項を参照してください。

## 25. 完全修飾名と短いホスト名の混在

現象： 完全修飾名と短いホスト名を混在すると、SPI for SAP が正常に稼動しません。正常稼動しない例：

- SPI for SAP モニタが送信するメッセージの中に、完全修飾名が表示されるメッセージと、短いホスト名が表示されるメッセージがある。
- SPI for SAP サービスツリー ノードの色が、関連するメッセージの重要度レベルと一致しない。
- R3 Info アプリケーションの出力には短いホスト名が表示されるが、SPI for SAP モニタのメッセージには完全修飾名が表示される。
- 統計記録有効化アプリケーションで、Rfc call succeeded successful for host <hostname>... というメッセージが表示されず、Please press enter to continue. というメッセージが表示される。

対策： ユーザー環境で完全修飾名を使用する場合は、常に完全修飾名を使うようにしてください。次に例を示します。

- SPI for SAP のセントラル設定ファイルである r3itosap.cfg で完全修飾名を使用します。
- 次のコマンドを実行して、OVO 管理対象ノードと OVO 管理サーバーの両方でホスト名の解決をチェックします。

```
perl -e "print gethostbyname('<short_SAP_server_ \
hostname>')
```

このコマンドを実行すると、ホスト <short\_SAP\_server\_hostname> の完全修飾名が表示されます。

## 26. モニタが AIX 管理対象ノードからメッセージを送信しない

現象： HTTPS エージェントを使用するように設定された AIX 管理対象ノード上で、SPI for SAP モニタのいくつかは、opcmsg および opcmn が見つからないため、次のエラー メッセージを生成します。

Can't retrieve value for monitor '<monName>'. Suppressing further error messages. (OpC30-608)

製品とエージェントのバージョン間でパスが変更されたため、モニタが /usr/lpp/OV/bin/OpC 内に配置されているファイルを変更前のディレクトリ /usr/lpp/OV/OpC/ 内で探すことがあります。 /usr/lpp/OV/OpC/ は、現在は /usr/lpp/OV/bin/ 内のバイナリへのシンボリック リンクになっています。

対策 : HTTPS エージェントを使用するように設定された各 AIX 管理対象ノード上で、以下のように opcmmsg および opcmmon の両方について /usr/lpp/OV/OpC/ から /usr/lpp/OV/bin/ 内の実際のバイナリへのリンクを設定します。

```
ln -s /usr/lpp/OV/bin/opcmmsg /usr/lpp/OV/OpC/opcmmsg
```

```
ln -s /usr/lpp/OV/bin/opcmmon /usr/lpp/OV/OpC/opcmmon
```

## 27. AIX 管理対象ノード上で OVO エージェントを HTTPS から DCE へ移行後、モニタが動作しない

現象 : AIX 管理対象ノード上で、OVO Agent を HTTPS から DCE に戻す際に通常の手順で行っていない場合、SPI for SAP モニタが、モニタが正しい設定ファイルを見つけることができないことを示すエラーメッセージを生成します。HTTPS 管理対象ノード上の SPI for SAP モニタの設定ファイルの場所は DCE 管理対象ノード上の場所とは異なります。OVO Agent の種類の違いでパスが変更されたため、モニタは /var/lpp/OV/ 内に配置されているファイルを変更前のディレクトリ /var/opt/OV/ 内で探そうとします。

対策 : OVO エージェントを HTTPS から DCE に戻したい AIX 管理対象ノード上で HTTPS エージェントを削除後、DCE エージェントをインストールする前に、必ずディレクトリ /var/opt/OV を削除してください。

---

## ドキュメントの誤記

この項では、現行の **SPI for SAP** の製品ドキュメントの誤記や脱落のうち、製品のリリースまでに修正することができなかった内容について記述します。

### 1. SAP 共有メモリのサポート

- 場所： 『*HP OpenView Operations Smart Plug-in for SAP インストールガイド*』  
32 ページの表 2-3 「管理対象ノードのプラットフォームおよび SAP R/3  
カーネルのバージョン」。
- 問題： 表 2-3 に **SAP 6.40** が共有メモリ インタフェースをサポートしていない  
ことが示されていません。
- 対策： 脚注 b. 「XAL インタフェースのみ ...」は **SAP ベーシス バージョン 6.10、  
6.20、および 6.40** の列にも該当します。これらのバージョンの **SAP** は、  
共有メモリ インタフェースの使用をサポートしていません。

### 2. SPI for SAP ロールの割り当て

- 場所： 『*HP OpenView Operations Smart Plug-in for SAP インストールガイド*』  
62 ページ「OVO の SAP ユーザーのセットアップ」の項。
- 問題： **SAP** ユーザー「**ITOUSER**」へのロールの割り当てについての説明で、  
**/HPOV/SAPSPI\_MONITORING\_NO\_TCD** 等の割り当てられたロールお  
よび関連付けられた権限が完全かつ有効であることを確認する必要がある  
ことが明記されていません。
- 対策： **SPI for SAP** のロールの割り当ての際に、すべての必要な権限オブジェク  
トが有効でユーザーの照合が正常に完了したことを確認することは重要で  
す。**SAP** はユーザーの権限オブジェクトが有効であることやユーザーの照  
合が正常に完了したことを緑色で示します。赤色はユーザーの権限オブ  
ジェクトを有効にする必要があることやユーザーの照合を完了する必要が  
あることを示します。
- ITOUSER** の権限のチェックやユーザーの照合は、以下の手順で行いま  
す。
- SAP** システムにログオンし、トランザクション **SU01** を開きます。
  - ITOUSER** を選択し、**F7** キーを押してユーザー ロールの詳細を表示  
します。

## Smart Plug-in for SAP リリースノート ドキュメントの誤記

- c. ユーザー ロール (/HPOV/SAPSPI\_MONITORING\_NO\_TCD など) をダブルクリックしてさらに詳細を表示します。
- d. [User] および [Authorizations] タブが緑色であることをチェックします。



---

## 各国語のサポート

この項では、英語以外の言語環境のサポートについて説明します。

SPI for SAP A.09.02 Edition 2 は、英語および日本語の言語環境をサポートしています。SPI for SAP A.09.02 Edition 2 の日本語バージョンは以下の環境をサポートします。

- 日本語版オペレーティング システム
- 日本語版 OpenView Operations for UNIX
- 日本語版 SAP

SPI for SAP A.09.02 Edition 2 の日本語バージョンは、以下の日本語化された要素も提供します。

- 日本語のメッセージテキスト
- アプリケーション ボタンの日本語ラベル
- 日本語のドキュメント

ドキュメントは **FTP** によるダウンロードのみの提供となります。詳細については、担当の日本 **HP** の営業にお問い合わせください。

日本語環境を有効にするには、インストール プロセス中に以下の手順を実行する必要があります。

1. `r3itoin`s スクリプトを実行するシェルで、`LANG` 変数を以下のように設定してエクスポートします。

HP-UX:            **ja\_JP.SJIS**

Solaris:          **ja\_JP.PCK**

2. `/opt/OV/lbin/sapapi/r3itoin`s スクリプトを実行し、日本語統合をロードするかどうか尋ねられたら、**Yes** と入力します。
3. 管理対象ノード (SAP サーバー) に、SPI for SAP 移送ファイル `/opt/OV/lbin/sapspi/trans/readme` に示されている追加の日本語のトランスポートを適用します。『*HP OpenView Operations Smart Plug-in for SAP インストール ガイド*』の「SAP トランスポートの適用」の項で説明されている手順も参照し、実行する必要があります。

## サポートについて

次の HP OpenView Web サイトを参照してください。

<http://www.hp.com/jp/openview> (日本語)

<http://www.hp.com/managementsoftware/support> (英語)

HP が提供する製品、サービス、サポートに関する詳細情報をご覧ください。

HP OpenView ソフトウェア サポート オンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様の業務の管理に必要な対話型の技術支援ツールに素早く効率的にアクセスいただけます。

サイトのサポート範囲は次のとおりです。

- ダウンロード可能なドキュメント
- トラブルシューティング情報
- パッチおよびアップデート
- 障害情報
- トレーニング情報
- サポート プログラム情報

---

### 注記

一部のコンテンツでは HP Passport への登録やサービス契約 ID が必要となります。アクセス レベルに関する詳細は、次のページをご参照ください。

[http://support.openview.hp.com/access\\_level.jsp](http://support.openview.hp.com/access_level.jsp)

HP Passport ID の取得登録は次のページでおこなうことができます。

<https://passport2.hp.com/hpp/newuser.do>

---